第６回 メーリングリスト委員会から　　委員長　和田豊郁

電子メールアドレスの秘密

はがきの表にあて先の住所・氏名を書くように電子メールでは To: 欄に受信者のメールアドレスを記入すると届きます。電子メールアドレスの『@』の前が氏名（ユーザー名）、後が住所（メールサーバー名）にあたります。

氏名が住所の前にあるのは、電子メールがアメリカで発明されたため、アメリカの郵便物が氏名、番地、町、市、州（，国）の順で書かれるのと同じ構造になっているわけです。日本では多くの方の電子メールアドレスの最後は『jp』だと思います。これは JAPAN の略号です。イギリスは『uk』ドイツは『de』ですが、アメリカは『us』ではなく、国を表わす表記はありません。

アメリカの企業の『.com』というのを見たことがあると思いますが、日本やイギリスの企業は『.co.jp』『.co.uk』です。これは、インターネットや電子メールの発祥の地がアメリカであるため、アメリカは国内、それ以外は外国、という扱いで、アメリカは国の識別がない代わりに組織を表わす部分が３文字になっています。

『@』はアットマークと読みますがこれは英語の『at』です。taro@snk.or.jp のようなものを初めて見た日本人は何のことか分かりませんが、アメリカ人は『日本の組織 SNK にいる太郎』という風に自然に理解できてしまう表記なのです。インターネットやコンピューターは英語を日常的に使う人向きにできている、とも言えるのかもしれません。

会員の声　子どもたちを守りましょう

岡田哲也

最近、幼い子どもたちが母親の買い物中、車の中でライターをいじっているうちに内装に火がついたり、留守番中にマッチやライターで遊んでいるうちに火事になったり、親のパチンコ中に熱中症に罹って死亡するといういたましい事故が何度も起こっています。

もうこれ以上、このような悲劇を繰り返さないために、いろいろな手立てが考えられますが、私は**「幼児に対する保護者の安全配慮義務」**を、先ず法制化したいと思います。

好奇心いっぱいで、なんでも玩具にし、危険の予知もできず、身を守るすべもない。幼い子供たちを守ってあげられるのは親や家族をはじめとする大人です。

諸外国では昔から法制化されていますが、このような規定が我国にはないのです。「隗より始めよ」と申しますので、私は先ず久留米市で条例化し、広く市民に遵守をお願いしたいと思いますがいかがでしょう。続いて国会にも請願したいと存じます。

悲嘆にくれておられる親御さん方を鞭打つようで心苦しいのですが、今後このような事故がないように、心を鬼にして、あえてご提案させていただく次第です。

それがお空の星になってしまわれた天使たちへの、せめてもの償いかと存じます。

条例化に向けて、市議会宛の請願書にお名前を連ねて下さいますようお願いいたします。

お知らせ

1・スタッフジャンパー約 50 枚（黄緑色）、SNK のロゴやネームを入れて作成する（ジャンパーは寄贈品）。会の行事やイベントには、イメージアップ宣伝をかねて活用の予定です。（事務局）

2・荒木農園（島井理事）、３～４月初旬、花見実施。農園の活用を、畑オーナー3 畝（従来 2 畝）と広げる。

3・教育支援ボランティア（小島理事）小学低学年算数を年度内終了する。（年度通算 10 件、動員数 40 名）囲碁将棋について、（年度通算 8 件、動員数 16 名）（囲碁将棋）指導者が不足、見直しを検討。

4・特別講座「茶話会：最近の中国事情」（一ノ瀬理事）中国でのビジネスを基にした講話：青木正伸氏 3 月 30 日（火）　27 名出席、茶話会は中国茶菓子

5・デジタルアーカイブ（平岡理事）「久留米ん昔話」の 3 月 14 日物語の舞台となる寺町界隈を寺町ウオーク、「第２回久留米ん町探索隊」参加：46 名 第 2 作目となる「初手物語」のデジタル化に取り組む。

6・第 20 回全国椿サミット久留米大会（弥永理事）同時開催久留米つばきフェアー３月 20 日～24 日 つばきウオーキング 3 月 22 日（草野町）参加:35 名

7・関連して椿写真展（中丸理事）3 月 16～28 日 椿サミット（専従写真班）SNK5000 枚から 32 枚展示 一番街多目的ギャラリー　来場者数約 500 名

8・団塊世代の地域デビュー応援講座：於久留米大学 団塊の世代を対象にした講座：大学主催の講座、 ①2 月 20 日パソコン技術講座：SNK による「シニアネット久留米」の活動紹介とパソコン指導 ②27 日、高良山歴史観光の講座

（あとがき）ＳＮＫの核として育ててきたデジタルアーカイブも２期生の仕事が軌道に乗り、その活躍は期待出来る。新たな年度を迎え、筑後の歴史・文化遺産を体系化する大きな仕事が動き出した。SNK は筑後文化が輝いていた時代へ一端立ち戻り、文化が弾けた香りを拾い集める。繕い、編集し直して、孫子の時代まで伝えるため『文化を残す』壮大な計画に取りかかる。（弐）

NPO 法人　シニアネット久留米・広報 Vol.27　2010.5.1　http://www.snk.or.jp/

SNK

SENIOR NET KURUME

編集・発行
NPO シニアネット久留米
理事長　今津一躬
久留米市荘島町 13-1
TEL　0942-46-2277

新しい事業年度を迎えて　　理事長　今津一躬

４月から新しい事業年度がスタートしました。
これからの１年、そして将来に向けて意欲ある活動に取り組んでいきたいと思います。
会員の皆さんが多彩な活動を楽しんで頂けるよう、しっかりとした運営基盤を整備していきたいと考えています。この数年、ＳＮＫの収入源である会費収入や講座収入が伸び悩み、助成金などに頼らない運営に赤ランプが灯っていました。

会費は「振り込み」の協力を頂きましたし、会員向け講座につきましても受講者が増えました。これも色々な対策の成果と思います。会員が新会員を勧誘したり、魅力あるＳＮＫのホームページに更新した効果が会員を増やし、講師の皆さんの努力で、新講座の開講・特別講座の開講などが実を結んでいます。こうした成果を今期も育てたいと考えます。

今年で４年目になる久留米市と福岡安全センターとの協働事業である「にこにこステップ運動」も良い形で推移しています。市民の健康にローコストで貢献しています。

今年は筑後地区の歴史や文化遺産を語り、楽しみ、広く伝えていくために、ＳＮＫがインターネット・ネットワークを構築します。いろいろな関係団体や同好の皆さんに呼びかけ、繋がっていくことにチャレンジしていきたいと考えています。私達が市民の皆さんにもっと知って頂きたいこと、後世に伝えたいことを、デジタル・アーカイブの経験を生かして大きなうねりになるように育てていこうではありませんか。新しい同好の会員の入会ができれば、ＳＮＫの若返りも期待できると思います。

私の１枚‥‥傑作

隈元　丞（くまもと　すすむ）

八女地区の古代を彩った岩戸山古墳、この丘陵地帯から高良山まではなだらかな傾斜が続く。この丘陵地帯は古墳群が多く、昔の賑わいは果樹園や小規模工場に変わった。そんな環境にある丘陵地帯だが、この季節は梨の花が満開である。陽射しのある長閑な一日、ドライブの途中で見た梨の花の美しさに驚いた。

シニアネット久留米・広報 Vol.27 2010.5.1

ボランティア：４つの原則
１・人に強制されるのではなく、自発的な活動であること。
２・公共の利益に反する問題を自分の問題として解決を図る活動。
３・自身の意志で活動することで、金銭的な報酬を期待しない活動。
４・地域や社会に新しく起きる問題と創造的に積極的に取組む活動。

特集　地域で活躍するシニアたち

時代は変る、社会も変る、ボランティア参加でいきいき人生を考えています。地域が変る喜びを感じています。

あなたにも出来る・私たちのボランティアは快適社会づくりです。
・高齢化社会では、シニアの知恵を活かし、率先した活動に期待することは多い。
・エコロジー、学術文化や健康問題、福祉関係、災害に備える、途方もなく広がる。
・シニアとして抱える問題は多く、シニアゆえ取り組まねばならない活動も多い。
・地域に住み、長い人生を経験したから地域へご恩返ししましょう。

食の自立を目指して　　北野町　原　良直

妻に先立たれた友人が毎日の食に困っている様子を見るにつけ、男性の食の自立の必要を感じていた。地域の高齢者に呼び掛けて先生もいない男性料理教室を発足して５年が経つ。

久留米市が推進している地産地消を実践し、健康管理のため薄味、低脂肪、低糖のレシピで月２回開催している。場所が金島小学校児童達のアンビシャス広場と同じため「おいしそ～食べたか～」と子どもたちがのぞきに来る。「一緒に作ろうか！」と、年に４回「お爺ちゃんと子供の料理」も実施している。核家族が増え、高齢者と子供が接する機会が少なくなり、家庭で伝承されなくなった郷土料理を作る楽しさを共有している。

この事により「21 年度久留米市健康づくり実践優良団体」として久留米市から表彰された。食の自立だけでなく、子供の食育、高齢者の生きがいづくりと、効果が広がっている。

（男性料理教室 うまかもんば食う会 in ようきたの）

ボランティアとは自分の意志ではじめます。社会生活で障害となる要因があれば、地域との協働により変えていく。たくさんの喜びを育てる意志、報酬を求めない自発的な活動だから、大きな生き甲斐が生まれます。このページは「会員たちのボランティア生活」特集です。

TV や新聞ニュースを見るまでもなく、ネット社会の普及により世界はどんどん狭く小さく近くなっています。情報が大きく増えたことで知りたい以上の、専門的な知識も増え物知りとなりました。世界のこと、宇宙のこと、ホームページやブログによる情報は図らずも隣近所のことまで伝えてくれます。日々の暮らしの中にある我慢できない不合理も目に付くこととなります。理不尽を覚えて、我慢できない・見てられない・なんとかせにゃーと立上がり、楽しみつつ進めるのがボランティアの精神です。

豊かなシニアライフ

今日的な課題は、希薄となった地域とのつながりや連帯を取り戻すことです。シニアとして、世の中のいろいろに関わり、長い人生で学んだことを活かし、助け合いのシステムを社会の通念まで育てていけば、と考えます。社会は支え合う生活となり、シニアライフは楽しくなる。

SNK 会員は、自身の個性を活かして共に生活の基盤を広げています。高齢化社会が進むにつれ、介護関係のニーズは増えてきます、法の整備も進んでいます。だが社会は複雑で問題は多い。個人から地域へ働きかけ、快適な社会を考える。震災や火山噴火など災害に向き合うこともあります。地域で働く会員、自分に出来るこの時代の証言です。（編集部）

小生の或る地域活動　　SNK8 年目　　江上　憲一

2000 年 11 月に、退職後東京から 38 年ぶりに郷里；久留米に帰りましたが、浦島太郎的体験でした。試行錯誤ののち、55 歳の時に取得した資格「生涯学習インストラクター」を役立てようと、久留米市内の資格者を探しまして、共に地域活動しようと呼びかけました。21 名に出したハガキで、8 名が、集まりました。福岡県生涯学習インストラクターの会です。

（福岡県生涯学習インストラクターの会）

以来、今日までえーるピア久留米を拠点に、毎月１回の「生涯学習・勉強会」と、2003 年から久留米市との共催で、市民学習発展推進事業として年４回の「生涯学習・公開講座」を、開催しております。活動の趣旨は、毎日を、より明るく・元気で・楽しく過ごす為の提案を行い、自ら実践する団体です。会員 29 名。他に、地域活動は 11 団体に所属し、最近、高齢者が避けて通れない「認知症」予防対策を地域住民で行おうと筑後地域活動を開始中。健康寿命維持が原点です。

森の案内人　　吉永邦夫

日本は、先進諸国中、フィンランドに次ぐ森林の多い国です。しかし戦後、長い年月をかけて森林が開発され、放置され荒れていくばかりの状態です。こうした現状から森に親しみ、癒しを求めようという試みが次第に浸透してきています。経済至上主義からゆとりの時間を取り戻そうと林野庁が推奨して各地に森林セラピー基地づくりが進められています。

八女市黒木町グリーンピア八女では昨年５月から活動を開始しました。

HP（森林セラピー基地）http://greenpia-yame.com/therapy/index.html

問合せ申込先　くつろぎの森・グリーンピア八女　℡0943－42－2400

林の中や池の周りを２時間かけてゆっくり時間を忘れて散策すると、鳥の声、風の音、木々の匂いを感じます。

季節ごとに咲き乱れる花々を愛でながら歩いてみませんか。福岡県では浮羽町と篠栗町が同じように活動しています。私たち森の案内人は、自然の中で自分自身を振り返る時間にお伴します。

久留米の文化情報のお手伝い　　杉野佳世子

石橋文化センターの近くに家があり便利なため、天気のよい日は散歩がてらによく出かけます。美術館や図書館、文化ホールを見ては、文化的な行事に参加したいと思うようになりました。

専門的なことは出来ないが文化情報の発信や会場整理は出来る、それで久留米情報文化センターのお手伝いをすることとなりました。

お手伝いをしながら良いこともありました。音楽会や公演会で偶然チケットをいただき、有名な音楽家の時などラッキーと思いました。時間の空いた時、私はいろんなことに挑戦したいと思っています。

（久留米情報文化センター）

私の国際交流　　牟田慎一郎

ものの豊かさがはやされたバブルの絶頂期に疑問を感じ、「本当の豊かさ・生きがいとは何か」を自分自身に問いかけ、1990 年「21 世紀のための創造性溢れる豊かな個性作りを目指す」をスローガンに掲げ、「心の豊かさ」の実現のためのライフワークを実践する「創造性開発研究所」を設立しました。翌年、自宅近くに実践の場としてのクリエイトプラザを建設するとともに、スリランカの子供の教育里親になったのをきっかけに、私の国際交流活動が一気に広がりました。

これらの活動をしながら気づいたことは、「個性や創造性」や「異文化交流」が「生きがいの創造」を生み出すということです。個性を持つことが、国際社会でのアイデンティティであり、異文化交流により刺激を受け、自分自身を磨くことが、生きがいにつながります。　（CPI 教育文化交流推進委員会）

ボランティアとは、「社会のため」ではなく、「自分のため」だとの結論に達しました。自分が楽しんでる活動が社会のためになっていると継続する力が沸いてきます。　HP（生きがい創造ひろば）：http://www2.ktarn.or.jp/~muta/

スリランカの里子や、アジア太平洋こども会議のミッションで訪れるアジアの国々の人々との交流を通じての「感動」や「学ぶこと」に、いまあらためてやってて良かったと思っています。これらの活動を通じて、若いエネルギーと異文化を吸収しながら、毎日をいきいきと過ごし「生涯青年」を目指したいと思います。